豊富な実績 ― 全国で展開するフィールド調査

9 キョン防除（伊豆大島）

大島では、動物園から逃避した特定外来生物であるキョンが野生化し、個体数増加と分布拡大に伴う自然植生への影響や農作物被害などの問題が起きています。そこで、東京都の定めたキョン防除実施計画に基づき、根絶を目的とした捕獲技術開発を行うとともに、探索犬を用いた効率的な防除事業を実施しています。

10 大台ヶ原自然再生（奈良・三重）

台風による倒木、ニホンジカの個体数の増加、利用者の増加など、複合的な要因により衰退してしまった大台ヶ原の森林生態系を、昭和30年代前半までの姿へ再生することを目指して自然再生が進められています。当センターは、ニホンジカの個体数調整や植生の回復に伴う動物相等の変化を把握するためのさまざまなモニタリング調査を実施しています。

11 ツキノワグマ地域個体群の保護管理（島根・広島・山口）

島根・広島・山口の3県にまたがる「西中国山地ツキノワグマ地域個体群」の保護管理を進めるために、クマの目撃情報や、捕獲・被害情報から分布域を把握し、さらに、標識再捕獲法を用いて西中国山地における生息数を推定しました。これらの調査結果を「特定鳥獣保護管理計画」に反映させ、クマとの共存を図っています。

12 ツシマヤマネコの生息状況等調査（対馬）

絶滅のおそれのあるツシマヤマネコについて、環境省が実施している保護増殖事業の一環として、1984（昭和59）年度以降、分布や生息密度等を把握するための生息状況調査（全4回）を実施してきました。その他、飼育下繁殖事業や飼育下繁殖個体の野生復帰に向けた検討などにも取り組んでいます。

13 シカ・イノシシ保護管理計画（宮崎）

各地の森林や中山間地で農林業被害や自然植生への甚大な影響を発生させているニホンジカとイノシシを対象として、人との軋轢を軽減するための調査を実施しています。宮崎県全域を対象に分布状況や生息密度等の生息状況の調査、保護管理に資する情報の収集、施策の提案、特定鳥獣保護管理計画の策定支援を行いました。

8 南アルプス国立公園ニホンジカ対策（静岡・山梨・長野）

南アルプスでは、1990年代末からニホンジカによる高山・亜高山帯の植生への影響が報告されるようになり、その後約10年間で急速に拡大し深刻化しています。当センターでは、ニホンジカの生息状況や植生への影響を調査するとともに、高山・亜高山帯でのニホンジカの捕獲方法の検討を行い、対策に関するさまざまな提案をしています。

1 世界自然遺産登録（北海道）

知床は海氷の影響を受けた海と陸の生態系の豊かさと生物多様性の重要な地域としての普遍的な価値が認められ、2005（平成17）年7月、世界遺産一覧表に記載されました。当センターでは、世界遺産登録に向けた地域連絡会議の運営および遺産地域管理計画作成、ユネスコ世界遺産センターへ提出する推薦書の作成、諮問機関であるIUCNの視察対応等、知床が世界遺産登録を達成するまでの一連の作業を支援しました。

2 鳥インフルエンザ緊急調査（北海道・京都・鹿児島ほか）

鳥インフルエンザが確認された地域で、周辺に生息する野鳥のウイルス保有状況を把握する調査を実施しています。発生直後に緊急的に実施する調査で、当センターはこれまでに、日本各地の35都道府県に及ぶ地域で調査を行ってきました。2004（平成16）年に79年ぶりに日本で発生した際や、2010年12月に鹿児島県出水地方のナベヅルで発生した際にも緊急調査を実施しました。

3 特別天然記念物カモシカ保護地域特別調査（岩手・徳島・高知ほか）

全国13地域にカモシカ保護地域が設定され（四国と九州は設定準備中）、カモシカの保護が図られています。当センターでは、各地の保護地域において、カモシカ地域個体群を安定的に維持し、適切に保護管理するために、分布調査、生息密度調査、生息環境調査等を実施し、カモシカ個体群の保護管理に貢献しています。

4 震災後の福島県における調査（福島）

2011（平成23）年3月の東日本大震災に起因する福島第一原発事故の影響によって設定された警戒区域内で、野生動植物への放射線影響調査、野生鳥獣状況調査を実施しています。獣医を含む当センターの研究員が中心となって、外部の放射線研究の専門家とともに迅速に対応しています。

5 トキ野生復帰モニタリング（佐渡島）

2012（平成24）年、38年ぶりに野外でひなが巣立ったトキ。佐渡にふたたびトキが羽ばたくことを目指してさまざまな事業が展開しています。当センターは、佐渡に現地事務所を設けて、放鳥後の追跡や繁殖状況モニタリング調査など、トキの野生復帰に向けた業務に取り組んでいます。

14 マングース防除（奄美大島）

1979（昭和54）年にハブの駆除を目的に導入された外来種マングースは、奄美大島の固有種であるアマミトゲネズミ等を捕食し、その生息を脅かしています。当センターでは1996（平成8）年から

マングース防除を実施しており、新たなわなの開発や探索犬の導入等、さまざまな工夫によって大きな成果を挙げています。マングースの生息数は大幅に減少しており、全島からの根絶まであと一歩です。

15 石西礁湖サンゴ群集モニタリング調査（沖縄）

石垣島と西表島の間に広がる国内最大のサンゴ礁域「石西礁湖」において、サンゴ礁生態系の現状を把握するためのサンゴ群集モニタリング調査を実施しています。調査では石西礁湖内の31地点に永久調査区を設け、造礁サンゴ類の被度やオニヒトデ、高水温や台風によるダメージ、魚類相の変化等を毎年記録しています。

7 世界自然遺産登録（小笠原）

2011（平成23）年6月に世界自然遺産に登録された小笠原諸島。登録までの一連の過程を支援するとともに、登録時に日本に要請された「外来種対策の継続」を強力に推進しています。ノヤギ、ノブタ、クマネズミ、グリーンアノール、ウシガエル、オオヒキガエルなどを対象に、各島での根絶を目指してさまざまな対策を進めています。

6 赤城山ニホンジカ捕獲事業（群馬）

赤城山では、ニホンジカの生息密度が高まり、高山植物への食害や県道での交通事故が問題化しました。そこで、2009（平成21）年度から自動通報システムを導入したくくりわなと小規模巻き狩りによる捕獲事業を実施しており、個体数は減少しています。さらに、捕獲を強化するため、2015（平成27）年度からは、指定管理鳥獣捕獲等事業として継続されています。